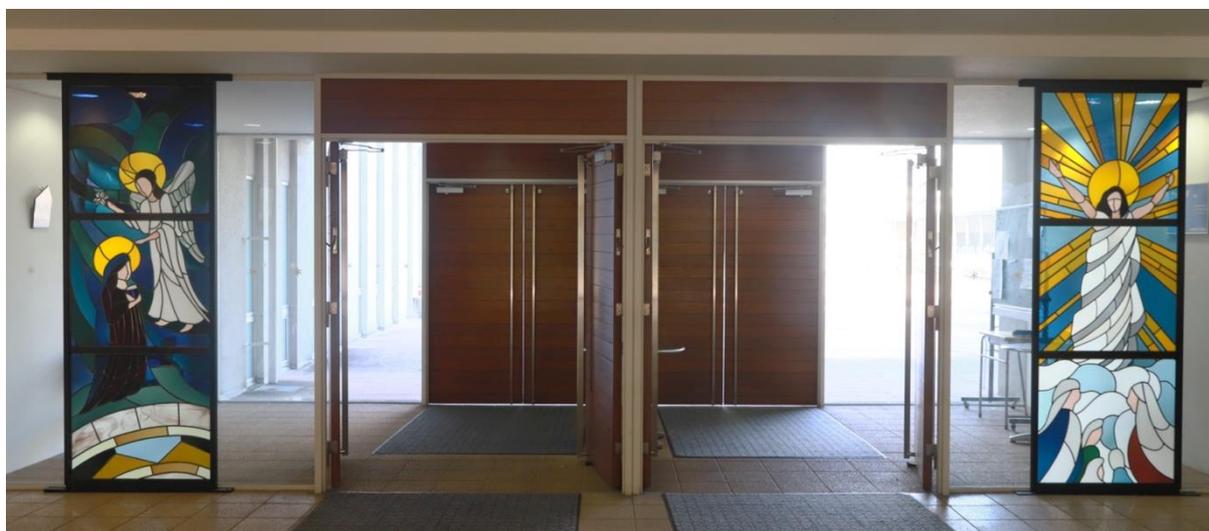


南山中学校・高等学校女子部75周年記念ステンドグラスを設置しました

南山中学校・高等学校女子部
宗教活動委員会

2023年10月30日、本校エントランスホールに2枚のステンドグラスが設置されました。これは、本校の75周年記念としてステンドグラス作家の川嶋正宏さんに作成していただいたもので、それぞれ聖書の物語をモチーフにした作品となっています。

本校エントランスホールには、旧校舎から受け継がれた「聖家族」をモチーフにしたステンドグラスがあります。聖母マリアの御手に抱かれた幼子イエス、そして優しく見守る聖ヨセフ。エントランスホールの東側の窓に収められたこの「聖家族」は、朝の光を受けて、登校する生徒をあたたく見守り続けています。その反対側に生徒が利用する玄関ドアがあるのですが、その脇のガラス部分に今回の2枚が加わることによって、学校生活を終えて家路に着く生徒たちをあたたく送り出すことができるようになったのではないかと思います。

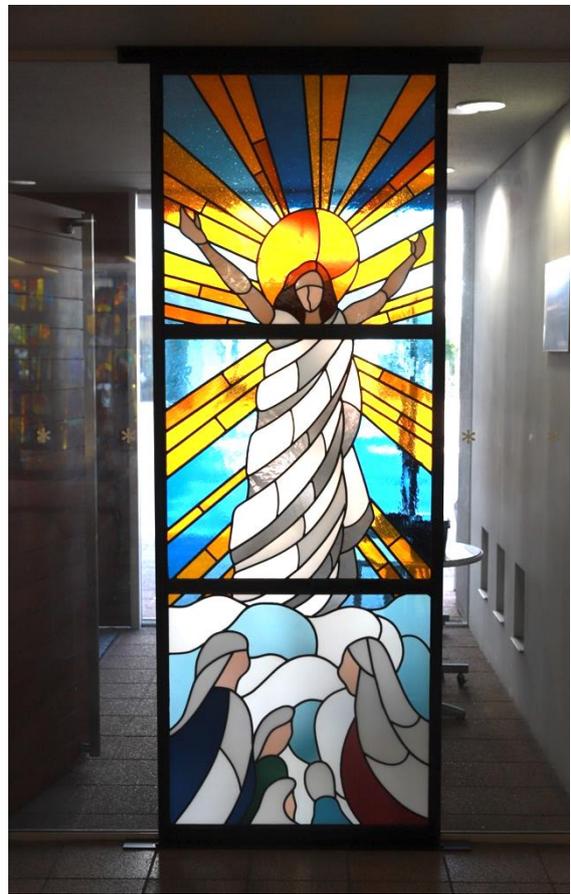


南山女子部75周年記念として設置されたステンドグラス

さて、今回新しく設置されたステンドグラスですが、向かって左側（中学シューズロッカー側）が「受胎告知」、向かって右側（高校シューズロッカー側）が「復活のキリスト」をそれぞれモチーフにしたものとなっています。「受胎告知」は、乙女マリアが神の子をみごもったことを天使に告げ知らされる場面であり、レオナルド・ダ・ヴィンチやエル・グレコなど多くの画家たちも描いたテーマです。ルカによる福音書によれば、「おめでとう、恵まれた方。主があなたと共におられる」という言葉とともに、天使がマリアに神の子をみごもったことを告げ知らせます。聖母マリアを表すアトリビュートである白百合の花が純潔の象徴として描かれ、また神の慈愛を表す赤い衣、聖母マリアを“海の星”と呼ぶ慣わしから来たとされる青いマント姿といった伝統的なマリアの姿で描かれています。「復活のキリスト」は、十字架上で亡くなったイエス・キリストが三日ののちに復活し、弟子たちの前に現れた場面であり、力強く両手を広げたその姿は、すべての人の罪をゆるし、またすべての人を愛し受け入れる神の懐の深さを表しています。マタイによる福音書には、「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる」という復活したイエス・キリストの言葉が記されています。



「受胎告知」(中学シューズロッカー側)



「復活のキリスト」(高校シューズロッカー側)

今回の2枚のステンドグラスを作成していただくにあたり、特に意識したのは正面の「聖家族」のステンドグラスとの調和です。カトリックのミッションスクールである南山女子部が大切にしたいのは、この「聖家族」のような家庭的であたたかなつながりです。そのような想いを中心に据えた6年間の学校生活を過ごして欲しいと願い、中学生側に救い主の誕生が告げ知らされる場面、そして高校生側に救い主が復活した姿で人々の前に現れ、開かれた懐ですべての人々を受け入れる場面を選び、一貫したストーリー性を持たせました。どちらの場面においても、「神がわたしたちと共にいてくださる」というメッセージが込められており、「聖家族」の姿とあわせて、わたしたちにはいつも共にいてくださる方がいる、ということを生徒に感じてほしいという願いが込められています。

75周年という節目に完成したこの2枚のステンドグラスが、「聖家族」とともにこれからもあたたかく南山生を見守り、また末長く南山生に愛されることを願っています。

